



戦後70年事業

「中学生広島派遣事業」 学習成果報告書



小田原市



1. はじめに	1
2. 派遣生徒・随行者 名簿	2
3. 事業日程	3
4. 実施内容	
○ 事前学習	6
○ 広島訪問	8
○ 事後学習	11
5. 私たちにできること	12
6. 学習課題	
○ グループ課題	22
○ 各班のまとめ	40
○ 個人新聞	44
7. 事業の記録	66
8. 平和都市宣言文	69



核兵器のない、誰もが安心して平和で暮らせる「世界恒久平和」の実現は、日本はもとより全世界共通の願いです。

小田原市は、過去に戦災を被るといふ悲しい歴史があります。惨禍を繰り返すことのないよう、核兵器の廃絶と、平和を守り次世代へ引き継いでいくため、平成5年10月1日「小田原市平和都市宣言」を制定し、その宣言の下、これまで戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えるさまざまな活動を進めてきました。

こうした中、平成27年が戦後70年・被爆70年の節目であることから、平和について改めて考える契機とするため、次代を担う若い世代を対象に、被爆地広島への派遣を行い、戦争の悲惨さや、いのちの大切さについて学ぶとともに、学習したことを各学校内で共有していただくよう、本市では初の試みとして「中学生広島派遣事業」を実施しました。

市内の11市立中学校から各校の代表として選出された派遣生徒22名は、事前学習・広島訪問・事後学習の行程で、仲間とともに学び、話し合い、多くの貴重な経験をしました。そして、学んだことや感じたことを、各学校や地域等で共有し、受け継いでいます。

この「学習成果報告書」には、派遣生徒が実際に見聞きし感じたこと、そして、中学生である自分たちは平和のために何ができるのかについて報告されています。今回の事業を通して、中学生の平和へのメッセージが学校や地域に広がり、平和について考えるきっかけになれば幸いです。

末筆ではありますが、本事業の実施にあたりご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

平成28年 3 月

小田原市長 加藤 憲一

派遣生徒・随行者 名簿



【派遣生徒（各中学校生徒2年生）】

学校名	生徒氏名 ^{ふりがな}
城山中学校	まの ころこ 眞野 心
	こうさか まやこ 高坂 万耶子
白鷗中学校	はぎわら せいら 萩原 星良
	たかなし ゆみ 高梨 祐実
白山中学校	さかい ほのか 坂井 ほの香
	うめはら やまと 梅原 大和
城南中学校	すぎざき ともき 杉崎 知樹
	よしだ みづき 吉田 海月
鳴宮中学校	いなやま まさと 稲山 雅人
	やまだ あかね 山田 茜
千代中学校	すずき まなみ 鈴木 愛美
	もちづき ななみ 望月 七海

学校名	生徒氏名 ^{ふりがな}
国府津中学校	おがわ ひなこ 小川 日菜子
	かねこ まさき 金子 雅季
酒匂中学校	はら ゆうと 原 優斗
	くりはら こゆる 栗原 こゆる
泉中学校	いしい たく 石井 琢
	わたなべ あづひと 渡邊 敦仁
城北中学校	やまだ ゆうだい 山田 雄大
	なかとがわ しおり 中戸川 誌珠璃
橘中学校	すぎもと まなみ 杉本 麻菜美
	あつみ のあ 渥美 希歩

【引率者】

いちかわ よしひろ 市川 嘉裕	教育部教育指導課 課長
せと ゆりこ 瀬戸 由里子	教育部教育指導課 指導主事
はやの ともひろ 早野 智洋	総務部総務課 総務係長
すぎざき えりこ 杉崎 恵理子	総務部総務課 主査

事業日程



◎ 事前学習 ◎

【第1回】

日 時	平成27年7月26日（日）13:30～16:00
場 所	市役所 7階 大会議室
内 容	(1) 事業の趣旨等の説明 (2) 自己紹介 (3) 係決め (4) 日程・学習課題の説明 (5) 戦争体験者の講話「広島で学んでほしいこと」 【講師】飯田 耀子（いいだ あきこ）さん (6) 感想交流

【第2回】

日 時	平成27年8月1日（土）13:30～16:00
場 所	生涯学習センターけやき 2階 大会議室
内 容	(1) 調べ学習 (2) グループワーク (3) グループ課題の役割分担について (4) 広島訪問3日目のグループ行動について (5) 広島訪問日程説明と確認事項

◎ 広島訪問 ◎ 平成27年8月5日（水）～7日（金）2泊3日

1日目	平成27年8月5日（水）
内 容	(1) 被爆体験講話 【講師】大田 金次（おおた かねじ）さん (2) 広島平和記念公園内見学 【ガイド】広島市観光ボランティアガイド協会（2名） ・原爆ドーム ・原爆の子の像（千羽鶴の奉納） ・原爆死没者慰霊碑（献花） ほか (3) 広島平和記念資料館（自由見学）

2日目	平成27年8月6日(木)
内 容	<p>(1) 平和記念式典に参列(参列者数:約55,000名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原爆死没者名簿奉納 ・式辞 ・献花 ・黙とう・平和の鐘 ・平和宣言(広島市長) ・平和への誓い(こども代表2名) ・あいさつ(内閣総理大臣、広島県知事、国際連合事務総長) ・ひろしま平和の歌 <p>(2) 呉市大和ミュージアム(講座・自由見学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大和」講座～戦艦大和の歴史・技術について～ 【講師】大和ミュージアム職員 <p>(3) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館(自由見学)</p> <p>(4) 本川小学校平和資料館</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ガイド】本川小学校保護者 <p>(5) グループワーク(振り返り等)</p>

3日目	平成27年8月7日(金)
内 容	(1) グループワーク(広島平和記念資料館等見学)

◎ 事後学習 ◎

【第1回】

日 時	平成27年8月17日(月) 13:30～16:00
場 所	市役所 6階 602会議室
内 容	<p>(1) グループワーク(グループ課題の作成)</p> <p>(2) その他</p>

【第2回】

日 時	平成27年8月23日(日) 13:30～16:00
場 所	市役所 7階 大会議室
内 容	<p>(1) グループワーク</p> <p style="padding-left: 2em;">広島から学んだ「平和」～私たちにできること～</p> <p>(2) グループ発表</p> <p>(3) 今後に向けて</p>

◎ 報 告 会 ◎

「平和の樹」植樹式及び「中学生広島派遣事業」学習成果報告会

日 時	平成27年10月25日（日）13：30～15：00
場 所	小田原フラワーガーデン 園内 及び 管理棟 2階 研修室
参加者	派遣生徒17名、一般市民約90名

「未来へつながる学校づくり推進事業成果報告会」における「中学生広島派遣事業成果報告」

日 時	平成28年1月16日（土）13：30～14：00
場 所	生涯学習センター 2階 ホール
参加者	派遣生徒20名、学校関係者・一般市民約350名

各校における報告会

学校名	報告日	対 象
城山中学校	平成27年10月13日（火） 全校集会	全校生徒
白鷗中学校	平成27年10月6日（火） 文化祭	全校生徒、保護者
白山中学校	平成27年10月13日（火） 学年集会	2年生
城南中学校	平成27年10月8日（木） 学習発表会	全校生徒、保護者
鴨宮中学校	平成27年12月24日（木） 学年集会	2年生
千代中学校	平成27年10月1日（木） 文化活動発表会	全校生徒、保護者、教職員
国府津中学校	平成27年10月16日（金） 学習発表会	全校生徒、保護者、地域の方
酒匂中学校	平成27年10月16日（金） 文化祭	全校生徒、保護者
泉中学校	平成27年10月9日（金） 前期終業式	全校生徒、教職員
城北中学校	平成27年10月22日（木） 合唱コンクール	全校生徒、保護者、教職員
橘中学校	平成27年9月1日（火） 全校集会	全校生徒

地域での報告会（「平和を考える集い」）

日 時	平成27年10月26日（月）19：00～20：30
場 所	小田原市保健センター 3階 大研修室
参加者	派遣生徒（酒匂中学校生徒）2名、一般市民約200名



◎ 事前学習 ◎

広島訪問をより充実したものとするため、2回の事前学習を行い、お互いの考えを話し合うなど、訪問への思いを深めました。

【第1回】

●戦争体験者の講話「広島で学んでほしいこと」 【講師】飯田 耀子 さん

原爆投下について、なぜ広島だったのか、また、その被害の状況など、詳しくお話いただきました。そして、実際に広島で見聞きする原爆投下の実相を忘れず、多くの人たちに伝えてほしい、“知ることから行動できる”と、エールをいただきました。



●感想交流

飯田さんの講話の後、各班で感想を話し合い、全体に向けて発表しました。

- ・この機会を捉えて、社会平和について考えていきたい
- ・戦争や原爆は、二度としてはいけない
- ・いのちの大切さを再認識した
- ・植物も育たず、人も住める状況ではないと言われていた広島が復興した背景には、たくさんの方の努力があったのだと感じた
- ・この思いを胸に、広島で多くのことを学び、学校の仲間に伝えていきたい



【第2回】

●調べ学習、発表

広島訪問で見学する5つの施設、「広島平和記念資料館」「原爆ドーム」「呉市大和ミュージアム」「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」「本川小学校平和資料館」についてパンフレット等を用いて、訪問のための調べ学習を行い、各班で「調べたこと」「何を見てきたいか」「疑問に感じたこと」などを模造紙にまとめ、発表しました。



【広島平和記念資料館】

- ・原爆投下後に降った黒い雨による被害や、佐々木禎子さんが願った希望を見たい
- ・被爆体験記などを見たり聞いたりして、被爆者の言葉や気持ちを知りたい

【国立広島原爆死没者追悼平和祈念館】

- ・平和記念資料館は「記念」、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は「祈念」、その違いは何だろう

【原爆ドーム】

- ・原爆ドームの世界遺産登録には、たくさんの人の思いがあったことが分かった
- ・原爆ドームの保存については、反対意見の人もいたことが分かった
- ・原爆ドームは、なぜ残ったのか疑問に思った。唯一の被爆国である日本だからこそ、核兵器の残虐さや核兵器の廃絶を訴えていきたいと思った



【呉市大和ミュージアム】

- ・戦艦「大和」の名前の由来や、当時の科学技術は現在と比べてどのくらいのものだったのか、技術を手に入れるまでにどのくらいの苦労があったのか知りたい
- ・大和ミュージアムでは、技術の高さが分かる一方で、兵器の恐ろしさについても学びたい



【本川小学校平和資料館】

- ・本川小学校では、生き残った方もいた。その生死の境は何だったのだろうか
- ・本川小学校平和資料館は、貴重な資料で、いのちの大切さを学べるので、原爆ドーム同様、世界遺産として後世に受け継ぐべきだと思う



【その他】

- ・戦争は人の命だけではなく、心や考え方も奪っていくことが分かった
- ・原爆によって、罪のない人が犠牲になった。被爆者の思いなどを見て、平和を強く願いたい

◎ 広島訪問 ◎

2泊3日の広島訪問で、仲間とともに学び、話し合い、多くの貴重な経験をしました。

【1日目】

●被爆体験講話 【講師】大田 金次 さん

被爆体験者の大田金次さんから、当時のようすや悲惨な状況をお聞きしました。

大田さんは、当時5歳。爆心地から900メートル離れた自宅の中にも、原爆が投下された際の閃光がはっきりと分かったそうです。



●広島平和記念公園内見学 【ガイド】広島市観光ボランティアガイド協会

広島市観光ボランティアガイド協会の方にガイドをお願いし、2班に分かれて広島平和記念公園内を見学しました。

主に見学したところは、「原爆ドーム」、「原爆の子の像」、「原爆死没者慰霊碑」。

「原爆の子の像」では、本市の中学生が平和の願いを込めて折った千羽鶴を奉納し、「原爆死没者慰霊碑」では、一人一人献花をささげました。

ガイドの方からは、「広島は、70年間、草木も生えず、人も住めないと言われた中で、芽を出したアオギリの緑は広島市民の光だった。緑は人間にとって大切。その生命力はすばらしい。皆さんも輝かしい未来に向かって頑張ってもらいたい」とエールをいただきました。



●広島平和記念資料館

広島平和記念資料館では、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す多くの写真・資料が展示され、派遣生徒たちは、原爆の実相を目に焼き付けるように、真剣に見学していました。

想像を絶する凄まじさに言葉をなくしてしまうほどでした。



【2日目】

●平和記念式典に参列

戦後70年・被爆70年ということもあり、参列者の数は、昨年に比べて10,000名多い、約55,000名。被爆者の高齢化などのため、式典会場では、テントが張り出されていました。

広島市長の「平和宣言」、子ども代表の「平和への誓い」、内閣総理大臣のあいさつなど、テレビで観ていた場所に参列していることを実感しながら、派遣生徒は、世界各国の方々と平和を願いました。



●呉市大和ミュージアム

呉市大和ミュージアムでは、まず、職員の方から「大和」講座を受け、戦艦大和の歴史や技術について学びました。

大和ミュージアムのテーマは、「歴史」「科学技術」「ものづくり」「平和」。

戦時中に、軍艦を造るという一つの産業ができましたが、戦後は平和のために、その技術が役立てられました。たくさんの犠牲の上に、今の私たちの暮らしがあることを学びました。

講座後の自由見学では、派遣生徒は、戦艦大和の迫力に目を輝かせながらも、当時の状況をしっかりと受け止めていました。



●国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、遺族の方の申し出により、原爆死没者のお名前と遺影（写真）を登録・永久保存し、公開しています。

体験記閲覧室などもあり、派遣生徒の中には、さまざまな資料や映像を閲覧・視聴し、調べ学習をしている生徒もいました。



●本川小学校平和資料館 【ガイド】本川小学校保護者

同校の保護者の方にガイドをお願いし、爆心地にもっとも近い学校として大きな被害を受けた本川小学校平和資料館を見学しました。

2年前まで小学生だった派遣生徒たち。

尊いのちを一瞬にして奪われた当時の小学生を思いながら、ガイドの方のお話や展示資料を熱心に見聞きしていました。



●グループワーク（振り返り等）

2日間、駆け足で見学・学習したことを、各班に分かれて振り返りです。

「この施設はこうだったよね」

「どんな風を感じた？」

2日目ともなると、グループワークも活発に行われ、見学施設やガイドの方から学んだことを、お互いに話し合いながら整理しました。



【3日目】

●グループワーク（広島平和記念資料館等見学）

最終日は、広島平和記念公園内でグループワークを行いました。もう一度見学したい施設や、新たに行ってみたい施設など、班行動で回りました。

どの班も、まずは広島平和記念資料館へ。時間をかけて、ゆっくり、じっくり見学しました。

公園内には、まだまだ多くの施設があります。「動員学徒慰霊碑」や「被爆アオギリ」など、時間が許す限り、見学しました。



◎ 事後学習 ◎

本事業の各行程で学習したことを整理し、まとめました。そして、「広島から学んだ『平和』～私たちにできること～」をテーマに、今回学んだことや感じたことを仲間や地域のかたと共有し、受け継いでいけるよう話し合いました。

【第1回】

●グループワーク（グループ課題（スライド）の作成）

「グループ課題」であるスライドの作成に取り掛かりました。これは、事前学習～広島訪問～事後学習の各行程で学習したことを整理し、スライドにまとめていく作業です。

たくさんある写真の中から、使用する写真を選定した後は、文章や写真などを決められた形式の中に収めたり、写真の説明を考えたりと、読んでいただくたに分かりやすく伝えられるように、班で協力して進めました。

※グループ課題は、22ページからをご覧ください。



【第2回】

●グループワーク 広島から学んだ「平和」～私たちにできること～

本事業の総まとめとして、「広島から学んだ『平和』～私たちにできること～」をテーマに、班で話し合い、出た意見などを模造紙にまとめて発表しました。

「あなたにとっての平和とは」「平和のためにできること」「今回の学びを通して学んだこと、感じたこと」について、それぞれの思い・考えを班の中で共有した後は、班の考えを上手に伝えられるよう、模造紙にまとめました。

身近な例や、実際に取り組めることなどを考えながら、「平和のためにできること」を具体化していきました。

※班の個性溢れる模造紙は、40ページからをご覧ください。





事後学習では、「あなたにとっての平和とは」「平和のためにできること」「今回の学びを通して学んだこと、感じたこと」について考え、仲間とその思いを共有しました。

派遣生徒のテーマは、「広島から学んだ『平和』～私たちにできること～」

被爆地広島で、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを目の当たりにして、二度と同じことは繰り返してはいけないと実感しました。そうしないために、中学生として何ができるのか・・・派遣生徒の思いが溢れています。

◎ あなたにとっての平和とは ～派遣生徒の言葉～ ◎

★ 被爆者の方の言葉で「『平和』とは人によって考え方、捉え方が違う」とあった。今、自分が思っている平和とは一つの意見であり、たくさんの考えを受けとめ、尊重し合い、伝え合うのが「平和」ではないかと思った

☆ 一人一人が平和について自分なりの答えを出し、それを意識していくことだと思う

★ 当たり前の日常がどんなに幸せなことかということ。当たり前のように過ごしていることへの感謝を伝えたい

☆ 戦争がなく、みんなが笑顔で過ごしていること

★ 戦争などで罪のない人々も殺されず、安心して暮らせて、日常生活を普通に暮らせること

★ 戦争がなく、家族や友達と一緒にいられること。戦争があると、死者が出て、悲しい思いをする人が出てきてしまう。だから、もう戦争は二度とやってはいけないと思う。当たり前に笑顔で話ができること、みんなが幸せに暮らせることが平和

☆ 家族と毎日が過ごせること、思いっきり部活をやること、他愛もない会話ができる。毎日が、たくさんの出来事に囲まれ、過ごせること。勉強して、遊んで、お腹いっぱいご飯を食べて、フカフカのベッドで寝る。そんな毎日が送れることが私にとっての平和

☆ 家族がいつも元気で笑顔でいること。
9年前、曾おばあちゃんが98歳で亡くなった。みんな泣いて泣いて、笑顔をなくしていた。広島原爆も同じ。だれかを失う気持ちは、すごく悲しい。これは私にとっての平和ではない。亡くなるのは仕方がないかもしれない。でも、自分の心はそれを許さない。つまり、平和とは、命があること。そして、次の日がやってくるのが、一番の平和なのだ

★ 私たちが身近に感じる平和とは、小さいかもしれないが、いじめや、犯罪のない世の中ではないかと思う。まずは、そこから平和なのではないだろうか。命の大切さをみんな感じていくことが、平和だと思う。なので、犯罪やいじめから生まれる犠牲があってはだめだと思った。一人一人が戦争について考えることが第一歩

- ★ 戦争のない世界
- ☆ 核兵器のない世界
- ★ みんなが平等に暮らせる

☆ 何か特別な出来事があるのではなく、当たり前前の日常（朝起きてから寝るまで）が、普通にある生活

☆ 紛争や戦争がなく、人々が武器を取ることのないことが平和

- ★ 非人道的な行為がないこと
- ☆ 犯罪やいじめがないこと
- ★ 一人一人が戦争について考えること

★ 当たり前前の日常。ぐっすり朝まで寝て、家族とご飯をお腹いっぱい食べて、学校に行って、他愛もない話で笑って、盛り上がって…そんな何気ない一つ一つが実は平和だと考える

- ☆ 争いのない、平等で、ほのぼのとした日々
- ★ 地球上すべての人間がご飯を食べ、働き、遊び、眠れる日々を過ごせる世界
- ☆ 当たり前前のことが当たり前と言える

- ☆ 戦争がまず、ないことだと思う。そして、みんなが相手のことを思い、行動や発言をし、考え方を共有してみんなが楽しく幸せな社会をつくり上げることだと思う
- ★ 殺人事件等の非人道的なことがないこと
- ☆ いじめや犯罪などが無い

- ★ 毎日笑顔で過ごせること
- ☆ 大きな幸せより、小さくても多い幸せの方が平和
- ★ 当たり前前のことが当たり前と言える世界こそ平和だと思う
- ☆ 「ああ、良かった」と言える世界
- ★ だれもが安心し、安全でいられること
- ☆ 戦争について考えること

★ 人の体の一部のように、絶対に欠かせない存在であり、かつ、皮膚のように何度も再生する存在だと考える。そして、人の命を、生活を守るための一つの道具だとも考える。人の平和への努力・気持ちの上でできるものだと思う

☆ 朝起きて、おいしいご飯を食べて、友達と楽しく学校に行く。いっぱい勉強して、いっぱい遊んで家に帰り、おいしいご飯を食べて風呂に入って、今日も楽しい一日だったと思いながら眠りにつく。今では当たり前なことだけれど、一日安心して楽しく過ごせることが平和だと思う

☆ 戦争がない、家族・友達と暮らせること
★ だれもが楽しく幸せに暮らせる世界
☆ 笑顔で楽しめること
★ 日常生活を普通に暮らせること
☆ 安心して暮らせること

★ 安全に楽しく過ごせること。戦争時代は、たったこれだけのことがありえない話だったと思う。これが世界中の人ができるのは難しいと思う。だからこそ、これが私にとっての平和

◎ 平和のためにできること ～派遣生徒の行動～ ◎

★ 少しの心構えの違いで大きく変わる。身近なことだとケンカ。「なぜ自分は今、怒っているのか」「相手はなぜ怒っているのか」「どうしたら解決できるか」「自分の意志は伝えたか」これらを整理することで格段に争いは減ると思う

☆ 他人の意見を否定するだけでなく、認めて聞いてあげることを大事にすること
★ 後世の人に戦争の悲惨さや、今回の広島訪問の3日間で学んだことを語り継いでいくこと

☆ 学んだことを多くの人に伝えること
★ 戦争の被害にあったものを残していくこと
☆ 平和についての事業に参加すること
★ 戦争体験者の話を広げる

★ 自分が聞いたこと、感じたことを友達や地域の人に伝えていく
☆ みんなに戦争について知ってもらい、こんなことはもう起こらないでほしいと思うこと

☆ 広島で学んだことを自分の周りの人たちに伝えていって、戦争を二度と繰り返してはいけないと分かってもらうこと

★ 多くの人が集まる場所で、戦争など平和についての話をしたり、SNSで発信し、平和の大切さを伝えること

★ 今回学んだことを人々に伝えていくこと。今回、戦争の悲惨さ、そして当時の人々の苦しみを学習し、とても胸が痛んだ。だから、その苦しみを繰り返さないよう、みんなに伝えていこうと思う。被爆者から聞いたことを伝え、戦争を二度と繰り返してはいけないことを伝える

☆ 広島で学んだことを、友達や家族、知人などに詳しく伝える。そして、世界で起きていることもどんどん自分の中で知って、またそのことも伝えたり話したりする。こうして、被爆者本人のような体験を含んだ話にはできないけど、その聞いた話とこの目で見たものを伝えたい

☆ 平和のために、私は今を精一杯生きる。他の国では、まだ戦争をしていたりご飯が食べれない人が、今でもたくさんいる。そう考えると、なんて私は恵まれた生活をしているのだと思う。まだ大人ではないので、他の国へのボランティア活動はできない。だけど、生徒会で行っているユニセフ募金ができる。世界すべてが平和になることを目指して、少しでも平和にしていきたい

★ 戦後70年が経ち、戦争や核兵器の恐ろしさを忘れかけてしまっている今、一人でも多くの人々が戦争によってもたらされる悲惨さを、しっかり理解すること。そして、それを次の世代に伝えていかれるように、「平和について考える機会」を学校や地域で定期的にもち、風化させないよう働きかけをすること

☆ 小さな平和をつくっていくことが大切だと思う。そして、命の大切さをみんなを感じていくことが、平和につながると思う。だが、その小さな平和をつくることは、とても大変だと思う。なので、まずは今回のことを、学校でみんなにしっかり伝えなければならないと思った

★ 自分のことだけではなく、人のためにできることを考え、思いやりを持つ
☆ 当時の人の心情から、自分たちなりの考え方を示していく
★ 身近な小さな争いごとや、けんかを防いでいく

- ★ 相手の国のことも考える
- ☆ 相手と自分を置き換えて考える
- ★ 未来のことを考える

- ☆ 戦争のことを詳しく知らない人のために話をしていくことや、平和の大切さを語っていくことだと思う

★ 戦争を体験しない、今の私たちにできることは、戦争の体験談を少しでも多く聞き、戦争の罪の重さ、命の尊さを“知る”ことだと思う。なぜなら、戦争を体験したことがない人は、戦争を“知る”ことしかできないからだ。だから、その分さまざまな考えを持ち、それらを共有して、「自らの体験談」を語れる人がいなくなっても、後世に語り継いでいくことが大切だと思う。なので、私もそれを実践していきたい

☆ 「平和」とはとても難しいことである。一人一人の考え方が違うからだ。なので、一人一人が、発言や行動を相手はどのように捉えるのかを考え、行うことが重要だと思う。また、戦争という悲惨な過去を改めて知り、「戦争はダメ」という強固たる意志を持つことも必要だと思う。まず、身近な戦争体験者のお話を聞きたい

- ☆ 争いを起こさないように、お互いの考えを尊重し、協調していく

- ★ 身近なことを言えば、けんかを止める
- ☆ 犯罪防止の活動をする

★ 例えば、学校の学活の時間で、戦争時の人々の心情や考え方を、当時の写真や再現ドラマ、資料などで読み取る。そして、今の私たちの考え方で、当時に向き合って話し合い、私たちなりの平和への思いや大切さ、私たちなりの“平和”という言葉の意味を出して、今、それを達成へ導くために何をすればよいか考えれば、行動に移すことができる

☆ 身近なことから始めることが大切だと思う。一人で大きな行動を起こすことは難しいけれど、自分の平和に対する思いを強く伝えていき、その思いが人から人へ伝わっていけば、やがて世界中を動かすような思いになると思う。世界中の核兵器がなくなり、だれもが安心して「平和な毎日」を過ごせる世の中を望んでいる

◎ 今回の学びを通して学んだこと、感じたこと ～派遣生徒の思い～ ◎

★ 被爆したアオギリの樹が希望となっていたことを初めて知って、広島のあるのは、芽として出た小さな木がたくさん人の心を支えたんだなと思い、どんなに小さいものでも大きな支えになれるということ学んだ

☆ 現在の平和な広島があるのは、先代の方々がどんな時も諦めず、広島の復興を強く願っていたからである。平和をつくることはとても大変だから、諦めないで続けることの大切さを学んだ

☆ 本川小学校平和資料館のガイドさんの言葉「平和は行動しないと守れない」という言葉が印象に残った

★ 目を閉ざさずに、ありのままの過去を知ることが重要だと思った

★ 原爆などの核兵器の被害を目の前で見て、生の声を聞いたことで、一部だけかもしれないけれど、悲惨さを強く感じる事ができた。また、平和について改めて考えたことで、いかに今が素晴らしいものなのかを感じる事ができた。学んだことを伝えて、平和に近づけたらと思った

☆ 戦争の悲惨さはもちろん、原爆の影響で日常生活が一瞬にしてなくなるという残酷さをよく知った。そして、日本が一番戦争の悲惨さなどを知っていると思う。なので、日本が中心となって、核兵器撲滅を訴えるべきだと思う。そして、日本がもっと平和について広めるべきだと思う

☆ 私たちが今生きていることがどれだけすごいことなのか、どれだけ大切なことか、今勉強していることの幸せ、今飲んでいる一杯の水のありがたみ、私のすること全部が幸せだと感じた。広島にいた人は、私がしているほぼすべてのことができていなかった。私と同じ歳の子もいっぱいいたと思う。戦争というものが生んでしまった兵器がにくい。戦争がにくい。これが私が感じる事ができた宝だ

★ 今まで戦争にあまり関心がなかったが、今は少しでも多く戦争について知りたいと思っている。核兵器は落とすことは簡単だが、その後の復興はとても大変だと思う。今の核兵器は70年前の核兵器とは比べ物にならないくらい威力は大きい。70年前でも都市がなくなってしまうくらい威力だった。現在の威力を考えてみてください。果たして、核兵器を造ったり持ったりすることは正しいだろうか

★戦争が起こした悲劇や原爆投下による被害について、たくさん学ぶことができました。その中で、原爆の後遺症で苦しんでいる人がいると聞いた時、悲しくなりました。なぜなら、戦争が終わってもなお苦しんでいるからだ。だから、二度と核兵器を使ってはいけないと思った

☆戦争の悲惨さ、そして戦争があるとみんなが悲しい気持ちになるということを学んだ。また、原子爆弾の恐ろしさを知った。今回の学びを通して、当時の人々がつらいことを乗り越えて残してくれた命を無駄にせず、感謝して、1日1日を大切に生きていこうと思った

☆日本（広島）の苦しみを学んだ。大切な人が亡くなってしまって、残された人の気持ちは残酷だ。残酷だが、この広島で起きた原爆投下は、日本人は忘れてはならない出来事だと思う。広島訪問で、多くの広島原爆に関する場所を見てきた。原爆ドームは当時の悲惨さを感じる、大事な建物だと思う

★事前学習では、初めて原爆のことを知り、広島訪問では、病気のことや広島が戦後どうなったのかを知り、事後学習では、もう一度振り返ることができた。今回学んだことは、原爆はすぐ造れるし、今も核兵器を持っている国があるから、日本が積極的に声かけをしなければいけないということだ

★3日間、広島でたくさんのことを学んだ。そこで学んだ原爆の恐ろしさなどを私の周りの人たちに伝えていき、たくさんの人たちに戦争のことを知ってもらいたいと思った

☆一番心に残ったことは、70年前の命の軽さだ。決して今も、それほどみんながみんな、大切にしているとも言い切れないが、命の重さ・軽さについて考えてみたくなった。また、今後、今回のことをしっかり伝えていきたいと思った

☆原爆は人の命を奪い、生き残った人々にも被爆による健康の被害を、今もなお与え続けている。核兵器は、人間社会を破壊させる恐ろしいものだと思う。戦争体験者・被爆者の高齢化が進んでいる。今、次の世代に語り継ぐ“伝承者”として、若い人たちの果たすべき役割が大きいと思う

★以前から多少は持ち合わせていた原子爆弾に対する知識を、今回の事業ですらに知ることができた。また、他の中学校の人の意見も聞けて、「そういう考え方もあるな」と思うことができた。この事業に参加した一人として、これからも原子爆弾や戦争について学んでいきたいと思った

★ 広島の日3日間、どんなにいつもの日常が幸せなのか、自分は何ができるのか考えさせられた。今、戦争から目を背け続けられれば、いつか知る人はなくなり、またあの悲劇が繰り返されてしまうと思う。戦争について学び続け、二度と繰り返してはいけなと心に刻んで、広島以外の場所にも訪れてみたいと思った

☆ 原子爆弾の恐ろしさを知ることができた。過去にこのような悲惨なことがあったということは知っていたが、なかなか見ることができなかつた。しかし、今回は歴史を見ることができて、とても良かった。戦争について知ることをここで終わりにせず、大人になつても向き合っていきたい

☆ 今回の学びの中で、たくさんの方のことを学び、考えた。その中でも特に私は、核の恐ろしさを再認識した。広島に行くまで、「原爆」と聞いても、「街ごとなくなる恐い爆弾」くらいにしか思っていなかつた。でも、実際に行つて資料を見たり、話を聞いたりしている内に、「言葉では言い表せない程、罪深いもの」というように考えるようになっていった。だから、それを体験した人の心を見ると、考えられない程に悲しい気持ちになる。なので、この先、この学習で学んだことを生かし、二度と人類が原爆を使わないように、戦争を起こさないように、周りの人から順々に様々な人へ「“平和”の大切さ」を伝えていきたい

★ 今回一番印象に残つたのが、戦争が巻き起こす「悲惨」さだつた。この悲惨さは、もちろん自然や建物、人の体に起こつたことでもあるが、私は人の「心」に変化が生じたことだとも思つた。そして、「戦争をしない」ために、今回広島派遣事業で学んだことを、友達や家族に伝えていこうと思つた。私の周りには、まだ広島であつたことを大まかにしか知らない人たちがいる。なので、私が詳しく伝えていけば、その人がその人の友達に、その友達が知り合いに、という風にどんどん伝え合いの輪が広がっていくと思う。そうすれば、少しずつ戦争についての悲しみや平和についての大切さをみんなが考え、本当の平和が世界に訪れるのだと思う

★ 戦争に対する意識が大きく変わった。戦争は恐いこと。それが戦争について自分が思っていることだつた。でも、実際に広島に行つて恐いだけでなく、その後の人生までもが変わつてしまふと改めて思い、それを今度は自分が後世に伝えていくべきだと思つた

☆ 平和はとても大切で、けれどつくるのがとても難しいものだと思つた。みんな「平和だ、平和だ」と言っているが、つい100年前は平和ではなかつた。たつた100年の間で平和ではないところから、平和になつたということは、その逆もありえる。なので、そうならないためにも、個人個人ができることをした方がいいと思つた

☆ 「現実で起きたことには思えない」原爆直後の広島の写真や遺品を見た時に、私が思ったことはだれでも思うことだった。でも、今だから言えることなんだと、今回の訪問で学んだ。実際に原子爆弾が投下された時、その場にいた人達は「怖い」「苦しい」では表されない、言葉にならない感情を、どう対処すればいいのか分からず、ただただ今でも苦しみ続けているのだから、言葉にならない思いを、今後私は伝えていけたらと思う

★ 体験した方の講話、原爆の被害を受けた建造物、残酷さを物語る遺品など、ときには目を覆いたくなるような事実もあった。しかし、私たちは歴史から目を反らさずに、後世に受け継いでいかなければならないと思った。この悲劇を、この先ずっと忘れないように、たくさんの人に今回学んできたことを伝えていきたい